

第 47 回沖縄県高等学校野球 1 年生大会 細則

1. 試合規則は、2022 年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和 4 年度、沖縄県高等学校野球連盟に登録された 1 年生であること。再入学の場合は、前学校において高野連主催の大会に出場した生徒は除く。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第 1 試合の出場チームは、試合開始 90 分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。(オーダー用紙交換は試合開始 50 分前に行なう。)
5. 第 2 試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4 回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は 5 回終了後に行なう(放送を行なう)。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師 1 名、副責任教師 1 名、監督 1 名、選手 20 名、記録員 1 名の計 24 名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること(高野連スタッフシャツも可)。
8. 試合前のシートノックは 7 分間。ノック時の補助選手は 5 名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒か白のスパイクまたはシューズとする。
補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員がいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ず SG マーク(経産省認可)両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット・マスク(SG マーク付)とスロートガード(のど部分の防護具)、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は投手が投手板に位置したならばプレーに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは 1 個のみとする(監督のみ使用)。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は 25 名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは 2 組(4 人)まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 2. 手指消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保など感染拡大防止に努めること。
 3. ブラスバンドでの応援、声を出しての応援や指笛、管楽器の使用を禁止する。
太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを 1 個とする。各チームによる音源の使用は認めない。
 4. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃と消毒に協力する。
 5. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、タオル等を振り回しての応援は禁止する。
 6. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー登録外1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは10回、無死1塁・2塁からとし、打順は10回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
 - ① 5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ② 決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
4. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。
5. 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また日没15分前から新しいイニングには入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。

※ 継続試合については決勝戦でも適用する。また、その詳細は別途定める。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
 - ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。
 - ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - (1) 打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - (2) 塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。

(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。